

2022年 1月 4日

(あて先) 三鷹市議会議長

## 議員行政視察に係る結果報告書

会派名 いのちが大事代表者名 野村 羊子

|         |   |
|---------|---|
| 1 視察年月日 | 2021年10月27日(水) 午前10時30分～正午  |
| 2 視察者氏名 | <u>野村羊子</u> 計 <u>1</u> 人 (他市同行議員8名)   |
| 3 視察先   | 東京 <u>都</u> ・道・府・県 八王子 <u>市</u> ・町・村  |
| 4 視察項目  | (1) 八王子市立高尾山学園 小中一貫の不登校特例校の教育活動<br>*参考 10月27日午後に、八王子北野市民センターにて開催される学習会「高尾山学園の設立経緯及び教育活動」(講師 幸地正憲都市教育研究所代表)にあわせて参加。  |
| 5 視察結果等 | 八王子市立高尾山学園は、教育特区を活用した小中一貫の不登校特例校である。民間人校長の黒沢先生にお話とご案内をいただいた。<br>現在9年目の黒沢校長の強いリーダーシップのもと、普通の公立学校より多くの大人を配置している。通常プラス加配の教員、スクールカウンセラー、補助員、有償ボランティア等々。人件費だけで年間約5,300万円の市費をかけているが、これが最大の特徴と校長は語った。<br>その上で、自己肯定感が持てるような子どもへの指導が徹底することと、授業を受けるか受けないかをふくめた自由・選択権が子どもに保障されていることが重要な点である。授業がつまらなければ、いつでもブレイルーム、保健室、相談室に行くことができ、それぞれの場所に人員が配置されている。一方で、教員は子どもたちをひきつける授業の工夫をすることを求められることになる。転校してきた子どもたちの出席率はあまりよくないが、高校受験を前に変わっていくとのこと。<br>午後は、場所を変え、幸地都市教育研究所代表に高尾山学園の設立の経緯や設置当初のお話などを伺った。学校ではない居場所を必要としているケース、集団に馴染めないケース等々、多種多様な学びの場と支援の |



場を社会の中につくっていくことが必要とのことで、教員から転身した代表は、今新たな居場所づくりへと動いているとのこと。  
不登校の子どもたちに寄り添う支援とは何かをしっかりと考える時間となり、三鷹での適応指導教室の在り方や不登校の子どもたちの支援の在り方のヒントとなった。

高尾山学園にて



八王子北野市民センターにて